

目 次

◆ 大会風景	1
◆ 大会要項	10
◆ 基調講演	13
《講 師》チーム「食卓の向こう側」 元西日本新聞社 編集委員 佐藤 弘 氏	
《演 題》「◎◎能力で短命県返上！！」～子どもたちの未来を守るため～	
◆ 課題別分科会	
第1分科会 歯・口の健康づくり	21
第2分科会 安全教育	43
第3分科会 健康教育	57
第4分科会 食に関する教育	77
第5分科会 学校環境衛生	91
◆ 大会実行委員会名簿	99

第一分科会

歯・口の健康づくり

研究協議題

「生涯にわたって歯・口の健康づくりに励む教育
の進め方」

◆提言者

外ヶ浜町立三厩小学校 養護教諭 工藤 華子

「感染症対策を考慮した歯科保健活動

～コロナ禍の取組を通して～」

◆提言者

三沢市立木崎野小学校 養護教諭 種市 陽子

「歯と口の健康づくりから始まる健康教育の実践」

◆助言者

上十三歯科医師会よした歯科医院 代表 吉田 悦子

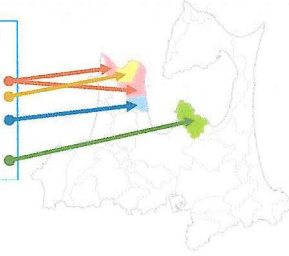
感染症対策を考慮した歯科保健活動 ～コロナ禍の取組を通して～



外ヶ浜町立三蔵小学校
養護教諭 工藤 華子

東郡(東津軽郡)の概要

東津軽郡
上磯地区
○外ヶ浜町
○今別町
○蓬田村
平内地区
○平内町



小学校 7校

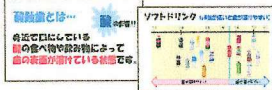
中学校 5校
※令和5年度に平内地区3校が統合

東郡養護教員会の実践

○平成28年度青森県養護教諭研究会研究大会《実践発表》
「歯と口の健康づくり～効果的な歯科保健指導を考える～」

- ・H25～27年の青森県と東郡のデータを比較。
東郡の方が青森県より、う歯被患率がやや高かった。
- ・歯内の要精検者が多かった。

ブラッシング指導や個別の歯科保健指導に継続して取り組む。



コロナ禍による歯・口の健康問題

だらだらと食べる
時間の増加

マスク生活による
口呼吸の増加

歯科受診の
機会の減少

マスク生活による
口周りの筋肉等
の低下

→う歯や歯周病、顎関節症のリスクが高まる

児童生徒の口腔内の状況

○新型コロナウイルス感染症による口腔状態への影響を調査

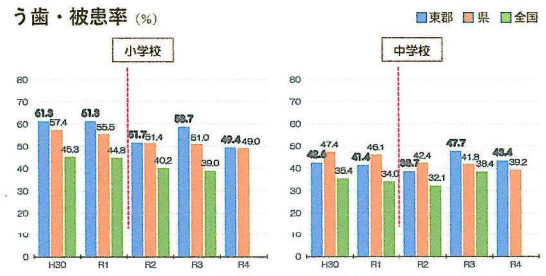
- ・過去5年間の歯科検診結果を東郡・県・国のデータで比較する。
- ・H30、R1をコロナ前、R2～4をコロナ禍とする。

○要観察者の推移を調査

- ・東郡の口腔状態をより詳しく知るため、要観察者の結果も調査する。

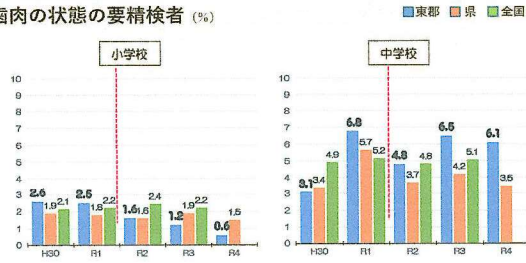
児童生徒の口腔内の状況

う歯・被患率 (%)



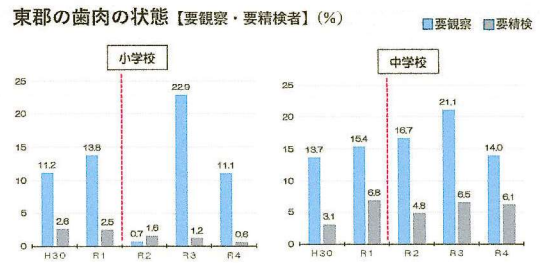
児童生徒の口腔内の状況

歯肉の状態の要精検者 (%)



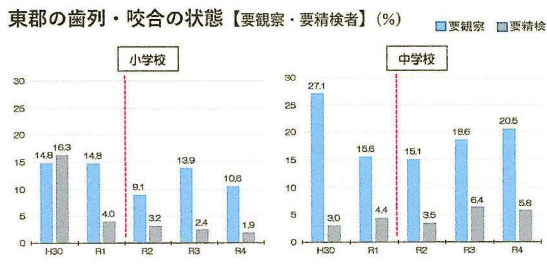
児童生徒の口腔内の状況

東都の歯肉の状態【要観察・要精検者】 (%)



児童生徒の口腔内の状況

東都の歯列・咬合の状態【要観察・要精検者】 (%)



調査した結果から

- コロナ禍前後で大きな変化は見られないが、項目により、増加傾向が見られるものがある。
- 要観察者が多い。…要精検者の予備群は多い。

歯科保健活動の充実が必要



コロナ禍における歯科保健活動の課題



実践内容

- I 昼の歯みがきの指導
- II 歯みがき指導(学級、個別、その他)
- III 口呼吸・だ液量・かむ力に関する指導

実践内容

I 昼の歯みがきの指導

- (1) 歯みがきの実施方法について
- (2) 水飲み場の使用について
- (3) 歯ブラシ保管について

(1) 歯みがきの実施方法について

○指導例：飛沫を防ぐための歯みがきの指導(小学校)



・全校集会で指導。(オンライン)
・動画を活用して、口を閉じてみがく、姿勢を低くして水をはき出す、などのブラッシング方法を指導。

・授業の時間に、各学級ごとに指導。動画を見ながら、学級の実態に合わせて指導。

(1) 歯みがきの実施方法について

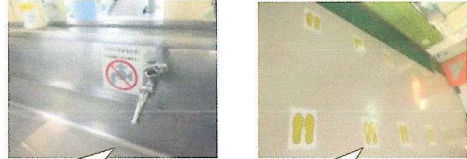
○指導例：歯みがきタイムでの動画の活用(小学校)



・毎日の歯みがきタイムの時間に、各学級で動画を再生。
・コロナ禍に対応した内容の動画を活用。
・動画を見ることで、前を向き、集中して歯みがきができるように指導。

(2) 水飲み場の使用について

○指導例：掲示物の活用(小学校)



・うがいをするときには、蛇口を一つ飛ばして使用する。

・密な状態を防ぐため、間隔を開けて並ぶ。

(2) 水飲み場の使用について

○指導例：清掃方法の工夫(小学校)



・持ち手のあるブラシやスポンジを使用して清掃する。
・感染のリスクや、それによる子どもや教員の不安感の軽減へつなげられるようにした。

(3) 歯ブラシの保管方法について

○指導例：仕切りや名札の活用(中学校)



・歯ブラシやコップの接触を避けるため、保管用のカゴに、仕切りや生徒の名前をつける。

成果・課題（I 昼の歯みがきの指導）

【成果】

- 全体に向けた継続的な指導により、学校全体で共通理解できた。
- 歯みがきや、水飲み場の清掃による感染リスクの不安感を軽減することができた。

【課題】

- 感染者数が落ち着くと、感染予防に対する意識が下がるため、繰り返し の 指導、定期的な呼びかけが必要である。

実践内容

I 昼の歯みがきの指導

II 歯みがき指導

III 口呼吸・だ液量・かむ力に関する指導

実践内容

II 歯みがき指導

- (1)学級での指導
- (2)個別指導

(1)学級での歯みがき指導

○指導例：歯の模型の活用(小学校：全学年)



- ・ペットボトルで、歯の模型を作成。汚れに見立てて赤く色をぬり、汚れが付きやすい部分を確認。



- ・グループワークのときは、机の配置を工夫した。(ダイヤモンド型になるように)

(1)学級での歯みがき指導

○指導例：歯の模型の活用(小学校：高学年)



- ・紙粘土で、前歯、おく歯、犬歯のミニマスコットを作成。



- ・歯の形の特徴や、それぞれの歯でみがき残しの多い部分、みがき方のポイントを確認。

(1)学級での歯みがき指導

○指導例：学級でのブラッシング指導(小学校：全学年)



- ・感染症の状況を考慮しつつ、学級ごとにブラッシングありの指導を実施。
- ・全員前を向く、間隔を空けるなどの対策を実施。



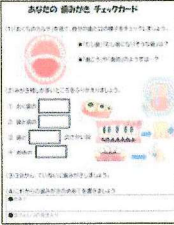
- ・ブラッシング時の飛沫を確認できる教材を活用し、口をとじて、小さく動かしてみがくことなども指導。

(2) 個別の歯みがき指導

○指導例：個別でのブラッシング指導(小学校：全学年)



- ・1～2名ずつ、パーテーションを設置して実施した。
- ・歯科検診結果を確認したり、ポイントをおさえたみがき方を実践したりした。



(2) 個別の歯みがき指導

○指導例：個別での面談の実施(中学校：全学年)

健康診断の結果(個人別の表)について

1. 性別
2. 年齢
3. 身長
4. 体重
5. 血圧
6. 心拍数
7. 体温
8. 視力
9. 聴力
10. 聴覚検査
11. 聴覚検査
12. 聴覚検査
13. 聴覚検査
14. 聴覚検査
15. 聴覚検査
16. 聴覚検査
17. 聴覚検査
18. 聴覚検査
19. 聴覚検査
20. 聴覚検査

令和4年度 健康・食生活に関するアンケート結果

1. 生活に関するアンケート (一部項目)

1. よく眠る	3	5	4
2. よく食べる	3	4	3
3. よく運動する	1	0	2
4. よく歯を磨く	1	4	3

- ・健康診断結果を伝え、生徒の歯の状態と一緒に確認。
- ・「生活に関するアンケート」に歯科に関する項目を入れ、歯や口の様子を事前に把握し、指導につなげた。

成果・課題 (Ⅱ 歯みがき指導)

【成果】

- 感染症対策に十分に配慮し、学校や子どもたちの実態に合わせた効果的な指導ができた。
- 個別指導を行ったことでコミュニケーションがとれ、子どもの特性をより把握できた。
- 教材を工夫したことで、子どもの興味・関心を引くことができた。

【課題】

- ブラッシングなしの全体指導では、実践力を高めることが難しい。
- ブラッシングありの全体指導では、接触できないため、個別支援をすることが難しい。
- 知識や実践力の定着のためには、継続的な指導が必要である。

実践内容

I 昼の歯みがきの指導

II 歯みがき指導(学級、個別、その他)

III 口呼吸・だ液量・かむ力に関する指導

III 口呼吸・だ液量・かむ力に関する指導

○指導例：歯科指導教室の実施(小学校：4年生)



- ・養護教諭が実施。
- ・よく噛むことがむし歯予防に効果があることに気づかせる授業。



- ・ビスケットとおやつ昆布を食べ、噛み応えを体験した。
- ・よく噛むための手立てを話し合った。

III 口呼吸・だ液量・かむ力に関する指導

○指導例：歯科指導教室の実施(小学校：4年生)

I くらべてみよう

	ビスケット	おやつ昆布
1 かんたんに噛める	はい	いいえ
2 だ液の量	たくさん出た	たくさん出た
3 食べかす	ついてる	ついてる
4 あごの動き	ついていない	ついていない
	たくさん噛んでいる	たくさん噛んでいる

- ・だ液がよく出ることを実感できた。
- ・導入をしっかりとすることで授業に見通しが持てた。

【課題】
課題解決に合った教材選びが必要である。

ご静聴、ありがとうございました。



歯と口の健康づくりから始まる 健康教育の実践

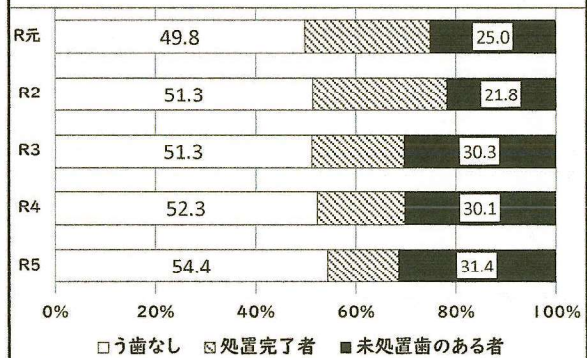
三沢市立木崎野小学校
養護教諭 種市 陽子



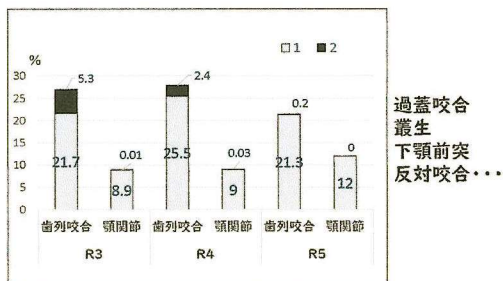
平成28年度以降

- H28 青森県学校歯科保健優良校 県一
 - H29 第56回全日本学校歯科保健優良校
日本学校歯科医会会長賞
 - H30 青森県学校歯科保健優良校 県一
 - R 1 第58回全日本学校歯科保健優良校 奨励賞
 - R 2 青森県学校歯科保健優良校 県一
 - R 3 第60回全日本学校歯科保健優良校 奨励賞
 - R 4 青森県学校歯科保健優良校 県一
- 令和4年度優れた「『早寝早起き朝ごはん』運動」
文部科学大臣表彰

う歯被患率 年次推移



歯列・咬合・顎関節 要観察・要精検者



➡ 姿勢や態癖も原因??

歯科検診事前問診票

- 1 歯が痛んだりしみたりしますか
- 2 歯ぐきから血が出ることはありますか
- 3 歯並びが気になりますか
- 4 口を開けにくかったり痛むことがありますか
- 5 口を開けた時にあごの関節で音がしますか
- 6 口のおいが気になりますか
- 7 発音に不自由を感じることはありますか
- 8 現在歯科治療中ですか

歯科検診事前問診票(態癖)

以下のような癖はありますか。

- 爪を噛む
- 頬づえをつく
- 指をしゃぶる
- 歯ぎしりをする
- 口をよく開けている
- くちゃくちゃ食べる
- いびきをかく

日常の歯科保健活動



「イ〜ハ〜」付属のポスター

フッ素洗口の実施



フッ素液を分ける担任



道具を返却する児童

日時: 毎週木曜日・朝
 洗口液の各クラスへの分配: 養護教諭
 事前・事後指導: 学級担任

お口の健康からからだの健康へ〜三沢市のフッ素洗口の取り組み〜



青森県庁HPまたは三沢市ケーブルテレビHPで視聴可能

保健委員会の活動



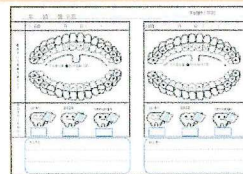
アルコールで丁寧に
ふきあげます



ブラシの部分が上の方が
いいのかな・・・

歯みがき指導

年間指導計画に位置付けられている活動



6月
1.5年生…養護教諭

11月
2年生…養護教諭
3年生…学校歯科医

12月
個別指導
(2回ともCだった児童、歯科検診の結果Gと診断された児童)

【感想】
 ・まえばがよごれていました。これからは、まえばをきれいにみがきたいです。(1年生)
 ・うらのところをハブラシをたてにしたらもっとよれがとれました。いつもうらはよこてやっていたからわすれないようにしたいです。(2年生)

歯みがき指導(2,6年生)



歯みがき指導(3年生)



歯みがき指導(5年生・歯みがき大会)



歯科検診(事前問診票)

第一種 問診票		実施の流れ	
1. 歯が痛い、腫れている、出血している。	はい/いいえ/少し	1. 問診票配布・回収・集計	
2. 歯と歯の間の出血が気になる。	はい/いいえ/少し	2. 学校歯科医が事前にチェック	
3. 歯が黄ばんでいる。	はい/いいえ/少し	3. 歯科検診の実施	
4. 歯が黒くなっている。	はい/いいえ/少し	4. 質問への返信	
5. 歯が抜けかかっている。	はい/いいえ/少し		
6. 歯が動いている。	はい/いいえ/少し		
7. 歯が白く変色している。	はい/いいえ/少し		
8. 歯が欠けている。	はい/いいえ/少し		
9. 歯が折れている。	はい/いいえ/少し		
10. 歯が抜けた。	はい/いいえ/少し		
11. その他、歯が気になる点がある。	はい/いいえ/少し		

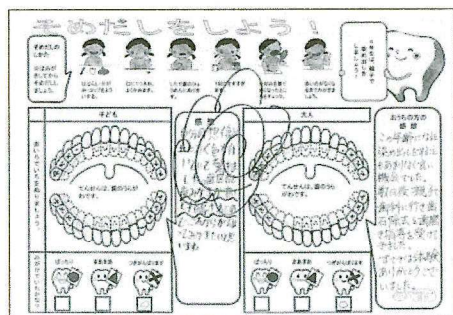
むし歯予防絵画・ポスターの作成



栄養教諭による授業



冬季休業中：親子で染め出し(6年生)



PTA活動

水分摂取をすると、
力が出る実験を
行っています。



昼の読み聞かせ
(演劇)の一場面

学校歯科医の活動



学校歯科医の活動(口腔機能の検診・歯科検診結果説明会)



口腔機能発達不全症

原因となる口腔疾患が無いにもかかわらず「食べる機能」「話す機能」「その他の口腔機能」が十分に発達していないか、正常に機能獲得ができていない状態。

→咀嚼・嚥下が上手くできない、口呼吸、構音異常

学校歯科医の活動(歯科検診結果説明会)

実施時期

①7月12日(水) 17:00~17:30

②7月14日(金) 17:30~18:00

※①か②、どちらかの参加

対象者

1. 6年生の舌機能が弱い児童の保護者
(児童の参加も可)

内容

- ・口腔機能発達不全症について
- ・舌の筋肉や口輪筋の筋肉の鍛え方について
- ・嚥下について など



【成果】

- ・歯科保健教育に長年継続して取り組んできたことで、家庭・子どもたちの歯科保健に関する意識が高く、行動に結びついている。
- ・フッ素洗口により、乳歯のおし歯が多かった児童も永久歯に生え変わるにつれ、永久歯のおし歯が減ってきている。
- ・学級担任が歯みがき指導を担当することが、教員の意識向上にもつながっている。また、学校歯科医の学校への関わりにより、様々な活動の協力が得やすい環境になっている。
- ・歯科保健以外の健康教育も、地域や家庭と連携して行っていることで、歯・口の健康に関する意識も総合的に高まっている。

【課題】

- ・ここ数年未処置歯のある児童の割合が増えている。
- ・高学年になるにつれ歯肉炎疑いの児童が出てくることから、早寝早起き、食生活の改善等の基本的な生活習慣の指導も重要となっている。
- ・歯列の乱れや不正咬合が気になる児童が多い。今年度は健康会議で「姿勢」について学習する予定であり、姿勢の乱れが不正咬合の原因になるということも折に触れて指導していきたい。

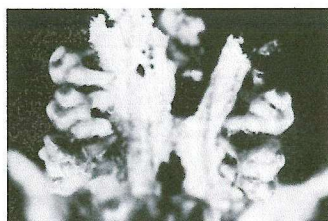
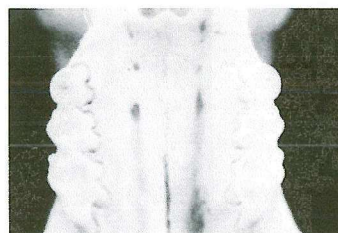


学校保健・安全・給食
研究大会

(医) よした歯科医院 吉田悦子



砂糖をとり過ぎの口の汚れは
プラークが **ベタベタ!**



白砂糖 **ぶどう糖果糖液糖**

- ・栄養成分がほとんどない
- ・胃腸の不調や肥満、疲れやすくなる
- ・血糖値の急上昇とインスリンの働きによる低血糖
- ・イライラやうつ状態を引き起こす
- ・身体を冷やす
- ・骨や歯を溶かす
- ・依存症になる・・・ など

白砂糖は、精製の過程でビタミンやミネラル、カルシウムが抜けてしまいます。カロリー以外の栄養がほぼありません。

白砂糖は体内に吸収され、ビタミンB群の助けをかりてエネルギーになりますが摂りすぎるとビタミンB群が不足したり、糖反射

（胃腸の働きが一時的に止まる、便秘になる）が起こり、胃腸に負担がかかることが報告されています。

上白糖が多く含まれるものをたくさん食べても、体内でエネルギーにならず、逆に身体は疲れていくのです。



10才以上の一日量



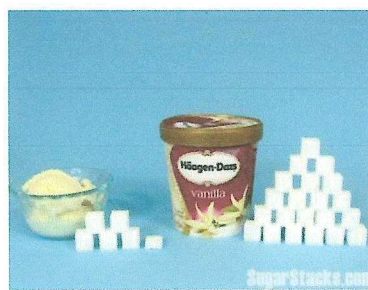
21g スティックシュガー約4本分

ケチャップ 大さじ1杯の砂糖量



およそ5グラム

清涼飲料水
と
砂糖



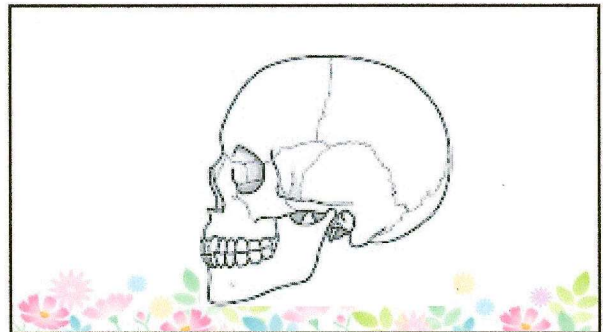
コロナ禍で何が変わったか

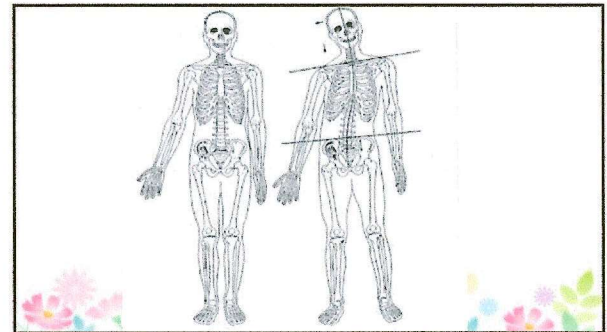
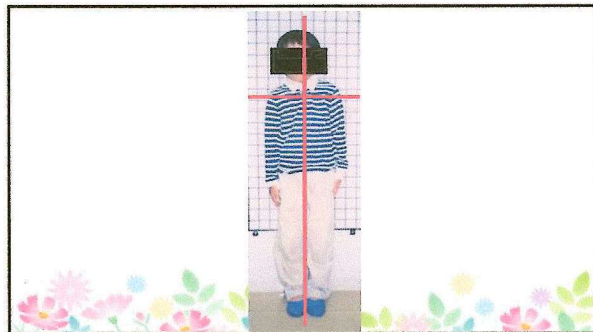
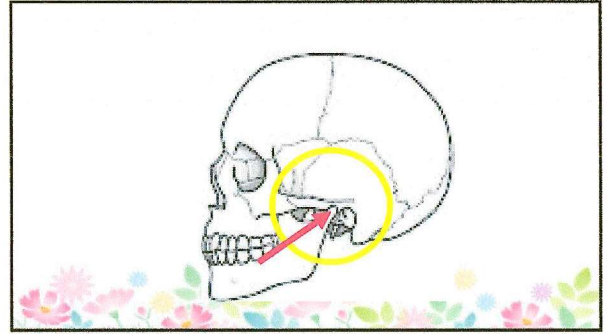
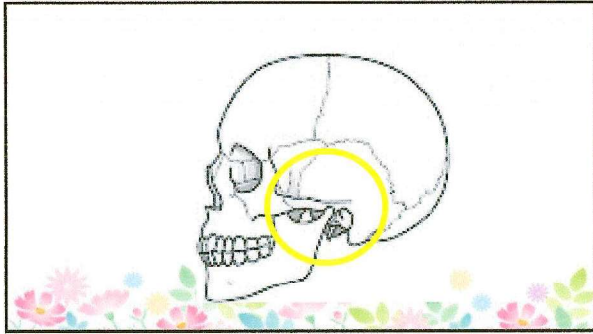
コロナ禍で何が変わったか

- ・マスクを長時間つけた生活
- ・外出抑制（室内で過ごす時間が増えた）



歯列矯正で使う顎間ゴム 強さの平均
1.0N (約100gf)

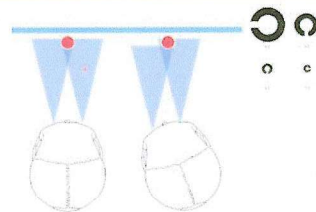




子供は**ブレーキ**が効かない
目が悪い子が増えている



体の歪みで目の位置が変わる

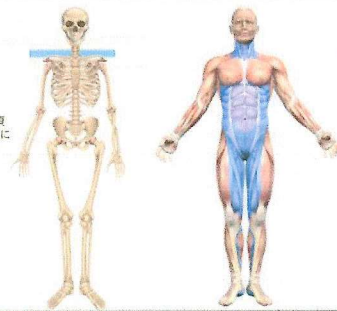


裸眼視力1.0未満のこどもの割合



データ：文部科学省 学校保健統計調査

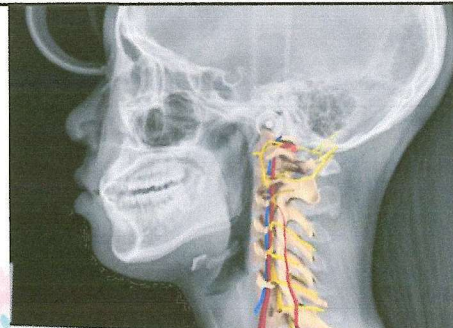
胸郭の発達
胸郭の筋肉は3~4歳頃
に始まり、10歳で成人に
近づき肋式呼吸となる



鼻が脳の冷却装置

脳のラジエーターとして重要な働き

脳は約20Wの熱を産生
頸動脈からの毎分5Lの血流によって放熱
脳温が40.5℃を超えると機能障害



足が床についている



足が床についでいない

出典：医歯薬出版 子どもの口腔機能を育てる本

第 1 分科会 記 録

第 1 分科会 分科会名 「歯・口の健康づくり」
協 議 題 生涯にわたって歯・口の健康づくりに励む教育の進め方

【提言 1】 外ヶ浜町立三厩小学校 養護教諭 工藤 華子 氏

「東郡養護教員会による、コロナ禍の歯科保健指導の取り組み」

(1) 昼の歯みがき指導

- ・コロナ禍での歯みがき方法の周知
- ・歯みがき動画の活用
- ・水飲み場での掲示物の活用と清掃方法の工夫
- ・歯ブラシ保管の工夫

(2) 歯みがき指導

- ・歯の模型（ペットボトル・紙粘土）の活用
- ・画用紙でブラッシング時の飛沫確認
- ・個別のブラッシング指導・面談実施
- ・長期休業中に個包装デンタルフロスの配布

(3) 口呼吸・だ液量・噛む力に関する指導

- ・養護教諭による授業の実施
- ・生徒委員会によるアンケート結果報告，学校歯科医による講話
- ・栄養教諭と連携した授業の実施

【提言 2】 三沢市立木崎野小学校 養護教諭 種市 陽子 氏

「家庭・地域，学校歯科医と連携した，歯と口の健康づくりの取り組み」

(1) 日常の歯科保健活動

- ・CD や DVD を活用した給食後の一斉歯みがき
- ・週 1 回のフッ素洗口の実施
- ・保健委員会による歯ブラシボックスの消毒等

(2) 年間指導計画に位置付けられている活動

- ・年 2 回の歯みがき（染め出し）指導
- ・歯科検診事前問診票を活用した歯科検診
- ・全校で，むし歯予防絵画・ポスター作成

(3) 家庭，地域との連携

- ・給食センター栄養教諭による出前授業
- ・長期休業中の親子染め出し実施
- ・PTA による「読み聞かせ」
- ・地域学校協働活動として夏休みにラジオ体操を実施
- ・学校歯科医による「保護者向けの講話」「3年生を対象とした歯みがき指導」「1年生・6年生を対象とした舌の機能チェック」等

【助言】 上十三歯科医師会 よしだ歯科医院 代表 吉田 悦子 氏

<提言者のお二人へ>

- ・ 歯科保健指導への熱量がすばらしい。
- ・ 目に見える結果は目の前で出にくいですが、確実に子どもたちの心に残り、時間を経て実を結ぶもの。教育はとても大事。ぜひ、継続、さらなる発展をお願いしたい。

<助言>

(1) 白砂糖の影響

- ・ 取り除きにくい歯の汚れは、ミュータンス菌が砂糖を原料にベタベタのプラークを作った結果であり、白砂糖の取り過ぎが原因
- ・ 通常の食事に加え砂糖水を2年間飲んだねずみには、むし歯だけでなく骨への影響も出現
- ・ 白砂糖、ぶどう糖・果糖・液糖の取り過ぎがもたらすもの〔スライド〕
- ・ 摂取量の目安(10才以上の推奨一日量)〔スライド〕
- ・ 砂糖を特に多く含むのはジュースとアイス
- ・ おやつに、甘いもの以外のものを選択することも推奨

(2) コロナ禍で何が変わったか

① マスクを長時間つけた生活

- ・ 不織布マスクのゴムが引く強さの平均は、歯列矯正で使うゴムの強さの平均とほぼ同等
- ・ 顎関節等への悪影響を危惧

② 外出抑制(室内で過ごす時間が増えた)

- ・ 長時間のゲームによると考えられる、スマホ首(ゲーム首)や体のゆがみが増加
- ・ 視力低下
- ・ 体を動かしたり歌ったりして胸郭の発達を促すことは、呼吸器機能向上のため必須
- ・ 鼻呼吸の重要性は、鼻が脳の冷却装置として重要な働きをもつことがひとつ
- ・ 筋肉が正常に発育・発達するためには、正しい姿勢が重要
- ・ 食べる機能・筋肉が発達するのは食事の時のため、食べる姿勢(床に足がついているか、胸部・腹部がつぶれていないか)も意識することが大切
- ・ 演習 飲みこむ機能を実感〔天井を見上げて唾液を飲み込む・あごを胸につけ唾液を飲み込む→飲み込みにくい〕
- ・ 子供たちが楽な方へ行ってしまうのは、なぜ呼吸や姿勢が大事なのか知らないため
- ・ 保護者とともに学び、みんなで取り組んでいくことが必要

第二分科会 安全教育

研究協議題

「生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うための
安全教育の進め方」

◆提言者

弘前市立新和中学校 教頭 岩間 一人

「交通事故防止、校舎内外の安全について」

◆提言者

おいらせ町立百石小学校 教諭 佐々木 千賀

「子どもに「自分事」としての意識を持たせる
防災（津波）指導について」

◆助言者

青森県教育庁東青教育事務所 教育課長 中居 敬子

第二分科会 安全教育

「交通事故防止・校舎内外の安全について」



弘前市立新和中学校 岩間 一人

1

お話しの流れ

- 1 学校の概要
- 2 実践の概要
- 3 実践の内容
 - (1)交通安全とヘルメット着用について
 - (2)学校生活の安全について
- 4 自転車通学の安全とヘルメットアンケート
- 5 成果と課題
- 6 おわりに(今後に向けて)

2

1 学校の概要



たか丸くん



3

(1) 地域の実態



- ・弘前市の北側に位置し、鶴田町と板柳町と隣接
- ・学校周辺は田んぼとりんご畑に囲まれている
- ・弘前から五所川原方面への近道で交通量が多い

4

(2) 学校・生徒の実態

◎学級数 4学級(特別支援学級含)

1学年 31名
2学年 21名 } 計 75名
3学年 23名

◎学区は小学校1校
中学校1校

※小中連携がしやすい

5

2 実践の概要

学校安全3つの柱

生活安全

交通安全

災害安全

新たな危険事象

交通安全とヘルメットの義務化や校内外の安全について、生徒の考えを引き出し、生徒とともにつくる。

6

3 実践の内容

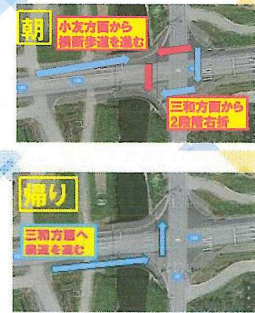
(1) 交通安全とヘルメットの着用について

- ① PTA生活委員会と連携による登校指導
- ② 交通安全教室と自転車点検の実施
- ③ 通学路の安全点検と危険箇所マップ
- ④ 自転車通学時の安全とヘルメット着用アンケート調査

※地域の方との「対話集会」

通学路危険箇所マップ

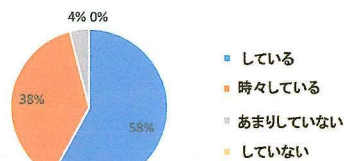
三和方面
交差点



(2) 学校生活の安全について

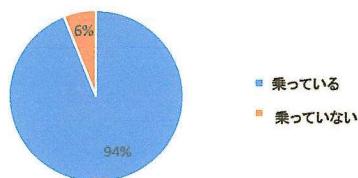
- ① 日常の校内巡回
- ② 校内の安全点検の実施
- ③ 安全な学校生活を送るために
※安全な学校生活を送る意識と行動
- ④ 災害安全(防災)

安全な学校生活を送る意識と行動



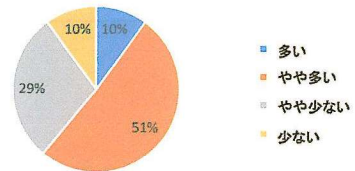
「安全への意識」と、危険だと思う
「場所・場面・時間帯」についての結果

① 自転車の乗車(通学・休日)

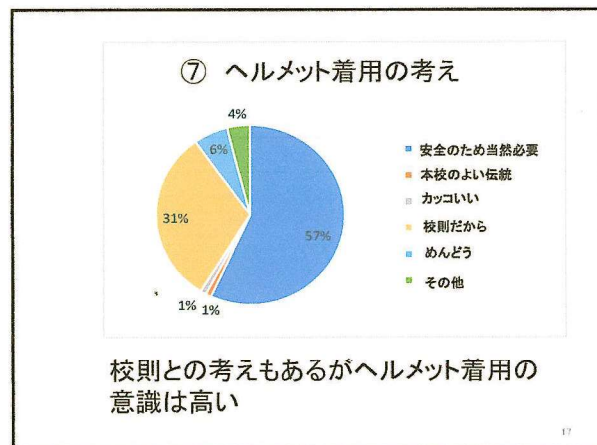
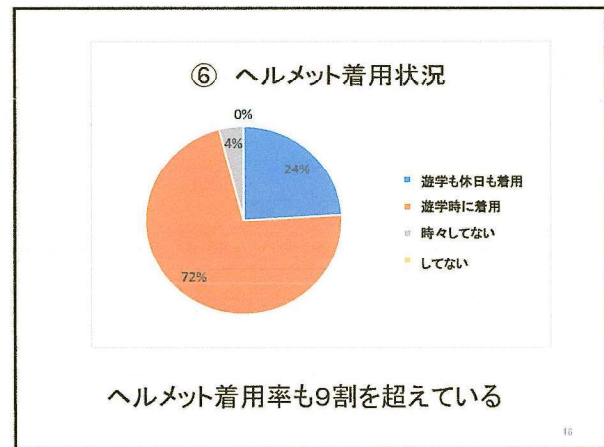
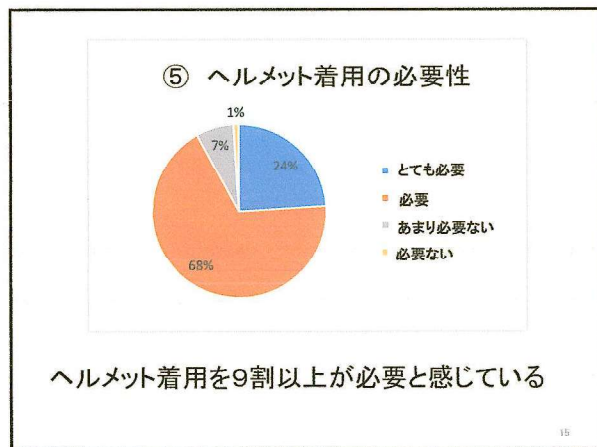
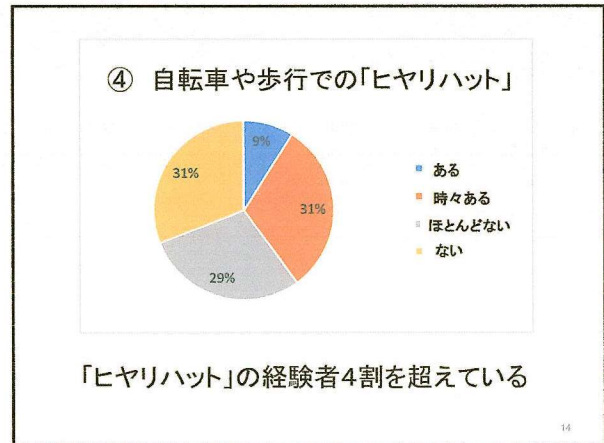
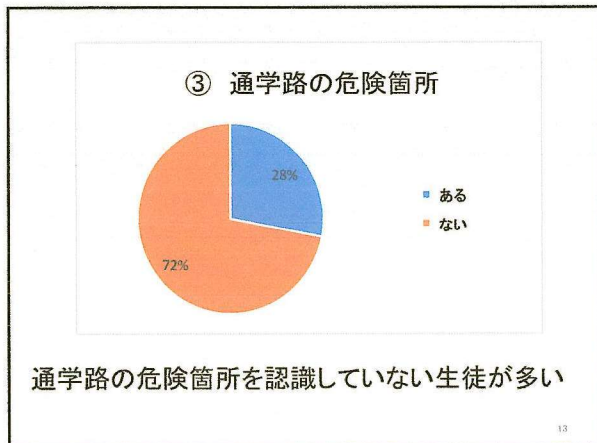


平日・休日ともに、ほとんどが自転車を利用

② 通学路の交通量



場所によっては道路が狭い割に大型車輛の
通行や交通量が多い



- ## 5 成果と課題
- ### (1) 成果
- ① 保護者と登校状況を把握し、安全教育について家庭や地域と協働的に取組
 - ② 安全について生徒の意見や生活体験を反映させた安全確保と指導が明確
 - ③ 親世代から継続のヘルメット着用により多くの生徒が安全のために必要と理解

(2) 課題

- ① 安全教育の継続的な取組と生徒も教職員もマンネリ化しない計画と実践
- ② 「自転車に乗るときは必ずヘルメット着用」という意識を醸成するために指導を工夫
- ③ 自然災害が少ない地域で、生徒も災害安全に対する意識が低く、災害教育を充実

19

6 おわりに

◎学校安全教育のねらい

- 自他の生命の尊重と自ら安全な行動
- 他者や社会の安全に貢献
- 安全を確保するための環境の確保

- 体験的な活動や実践的な取り組みを継続し、生徒とともに考え、自らが危険に気づき、考え判断し、安全な行動ができる力を育てたい。
- 学校以外でも、自分や他人の命を大切に、社会の安全意識を高揚したい。

20



御清聴ありがとうございました。



令和5年度青森県学校保健・安全・給食研究大会野辺地大会
生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うための安全教育の進め方

子供に「自分事」としての意識を持たせる防災(津波)指導について

令和5年11月17日(金)

おいらせ町立百石小学校 教諭 佐々木 千賀

おいらせ町立百石小学校の概要



・明治10年創立。今年度で創立146年の伝統がある。
・旧百石町の中心地にあり、近隣には分庁舎や百石高校、「みなる館」などの公共施設が多数ある。
・国道(338号と45号)があり、交通の往来が盛んな場所。また、学校の前に商業施設(おいらせSC)が作られる。

本校の安全教育の概要

<基本方針>

○防災や不審者進入時に対する知識を身に付け、安全に行動できる能力や態度を養う。

<基本的な考え>

○「自分のことは自分で守る」力を育む

いつ何時、災害があるか分からない。特に、津波などは自分で安全な方法を判断しないと命を落とす可能性が多い。安全な避難のために、情報を得る、自分で判断する、行動するということを普段から身に付けていく必要がある。

本校の災害安全に対する取組(令和5年度)

①避難訓練

◎地震・大津波警報を想定した避難訓練

→ 震度6強の地震の後に大津波警報が出された場合を想定

・火災を想定した避難訓練

→ 学校内火災を想定(時間、場所は毎年変更して)

・不審者対応訓練 → 休み時間に不審者侵入

・Jアラート対応訓練 → 学校内に児童がいる時間帯を想定

・大雨による洪水を想定した引渡し訓練

→ 大雨洪水警報が発令された場面を想定

②普段からの取組

・テストメール配信による保護者への連絡経路確認

青森県作成防災マップより



津波対応の避難訓練の実際①

<児童の実態>

○現在の子供たちは2011年の東日本大震災以降に生まれた。

→ その当時のことは話で聞いているが、実際に体験していない。

○子供たち(特に高学年)は、地震の後に津波が来るかも知れないという事実は知っているが、怖さを実感できないため、訓練に積極的になれない。



津波災害の怖さを少しでも実感できれば、子供たちが「自分事」として捉え、積極的に取り組むのではないかと。

津波対応の避難訓練の実際②

<事前指導>

◎児童に対して

- ・東日本大震災の時の津波の映像を視聴し、感想を述べ合う。
- ・自分で守りたいことを決定し、避難訓練のめあてを立てる。

*使用した映像

- ・気象庁作成「津波防災啓発ビデオ『津波からにげる』」



事前指導終了後の児童の感想

- ・私は、津波の動画を見て、すごく怖いと思いました。私は津波の怖さをあまり知らなかったのて津波があったときの動画を見て、津波の怖さを知りました。(3年女子)
- ・もっと高いところに行こうとしないと自分の命がなくなってしまうから、油断しないで高いところに行く気持ちが必要なんだと思った。地震が来たら、チャイムや放送をちゃんと聞いて行動しようと思った。(4年男子)
- ・私が動画を見て思ったことは、避難所についても安心してはいけないということです。なので、避難訓練では1年生と手をつないで責任を持っていちよう公園に行きたいと思いました。(5年女子)
- ・地震があったらたとえ弱くてもまずは津波が来るんじゃないかと心配したり、避難したりするのがとても大切だと思いました。ここなら安全と思わず、より高い場所を目指すことも大切だと思いました。自分たちが逃げることで周りの人たちも逃げると思うから、周りを待つのではなく、自分から行動すれば良いことが分かりました。(6年男子)

避難訓練当日の内容

<想定>

- ①震度6強の地震
- ・児童は机の下へ避難

↓

- ・グラウンドへ避難
- ②大津波警報発令
- ・いちよう公園に避難開始
- 各交差点に教員配置
- 1年生と5・6年生のペア
- 先頭校長と担当
- 各担当が間に入る
- 教頭が最後尾



当日の避難の様子①



当日の避難の様子②



成果

- ・事前指導で、津波の映像を見せ、めあてを持たせてから、訓練に取り組ませたことで、めあてを意識して、真剣に取り組む児童が多かった。
- ・授業時間内に地震が津波が起きた想定の場合、安全に3次避難まで行うことができた。

課題

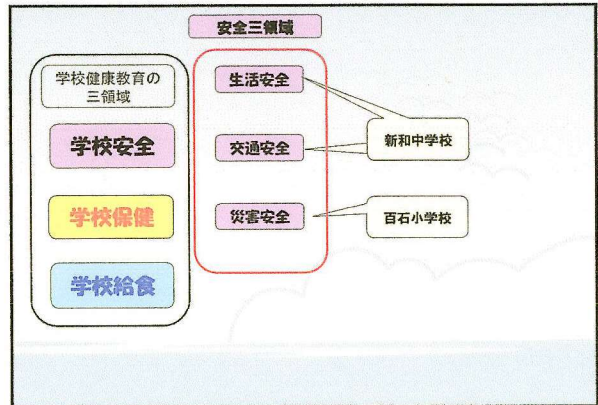
- ・津波映像の視聴を毎年実施することで、児童の意識がマンネリ化する可能性が高い。
- ・実際に津波警報が出された場合、交通量が多くなり、短時間で安全に避難できるか心配。
- ・保護者への引き渡し、連絡方法等の周知が不十分。



ありがとうございました。

令和5年度 青森県学校保健・安全・給食大会 第2分科会【安全教育】

東青教育事務所
中居敬子



目次

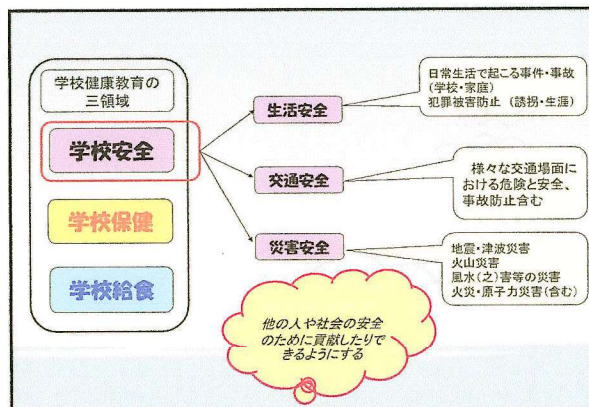
第3次学校安全の推進に関する計画

令和4年3月20日

第3次学校安全の推進に関する計画（概要）

- 学校安全の推進に関する計画：各学校における安全に係る取組を総合かつ効果的に推進するため、国が所定する計画（学校保健安全法第3年第2項）
- 「第3次学校安全の推進に関する計画」の決定について（令和4年2月7日中央教育審議会答申）（長読み、令和4年3月25日（金）に閣議決定）（計画期間：令和4年度から令和8年度までの5年間）

I 目的	推進の基本的方向性
<ul style="list-style-type: none"> ○学校が作成する計画・マニュアルに基づく取組 ○学校安全の取組や取組の進捗 ○関係する関係機関との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全文化の醸成 ○関係機関との連携 ○関係機関との連携
<p>実効性のあるもの</p>	
<p>取組する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全ての児童生徒が、自ら進んで行動し、主体的に行動できるよう、安全に関する知識・能力を身に付けること ○学校管理下における児童生徒等の安全確保に努めること ○学校管理下における児童生徒等の安全確保に努めること 	
<p>II 推進方法</p> <p>5つの推進方針</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校安全に関する組織的取組の推進 2. 家庭、地域、関係機関等との連携・協働による学校安全の推進 3. 学校における安全に関する教育の充実 4. 学校における安全管理の取組の充実 5. 学校安全の推進方法に関する横断的な取組等 	



弘前市立新名中学校(生活安全・交通安全)

○地域の実態

- ・交通の便が良くなった ⇒ 交通量増 ⇒ 登下校が危険
- ・家族の絆や地域のつながりが強い
- ・教育活動に協力的

○生徒の実態

- ・素直、人間関係が固定化し、なれ合いの傾向
- ・コミュニケーション能力に課題あり
- ・困っていることや悩みを伝えることが苦手
- ・他者との違いを理解することが苦手

取組

- 地域を巻き込んだ取組
- アンケートによる意識改革
普段何気なく行動していることを意識化 ヒヤリハット
- ヘルメットについて、「よい伝統」

交通安全への不安

教育が必要
保護者地域を巻き込んだ取組

学校安全指導者研修会【交通安全】(R5.9.5)
 講義講師: 学校法人 東北工業大学 小川和久教授 より

○交通安全教育の目的
 リスクある道路交通環境への適応を支援するための資質・能力の育成
 (リスクマネジメント・危機管理に関わる資質・能力の育成)

○安全教育の方向性

地域のリスク
 他者のリスク
 自分のリスク

発達段階に応じて
 拡大発展

安全行動
 下位層からの学習経験の積み上げ
 付録p142-143

ヘルメット
 道路交通法の改定により、全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となる

安全 守り ① **車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先**

自転車安全利用五則 (内閣府)

自転車は、歩道と車道の区別がある道路では車道通行が原則です。
 車道を通行する場合は、左側に寄って通行しなければなりません。

罰則 3ヵ月以下の懲役または5万円以下の罰金

講義講師: 学校法人 東北工業大学 小川和久教授 より

自転車点検・ヘルメット着用 **知識・技能**

危険予測と危険回避 **思考・判断・表現**
 ヒヤリハット

伝統、必要と意識 **学びに向かう力 人間性**
 (下級生への指導と模範行動)

おいらせ町立百石小学校 (防災教育)

○地域の実態

- ・H16校舎新築
- ・大型店舗が数店出店 ⇒ 交通量が昼夜問わず多い
- ・第2級河川(奥入瀬川・明神川)に挟まれている
- ・津波が予想される地域

○生徒の実態

- ・他人に頼りがち
- ・進んで物事に取り込もうとする態度がややかける
- ・東日本大震災後に生まれた子

取組

○津波避難訓練の実施

- ・緊急メール連絡へ全家庭登録のお願い
- ・障がいのある児童の避難、けが人を想定した避難
- ・高学年が低学年を世話をしながらの避難

※垂直避難もあり

災害時大丈夫?
 自分の命は自分で守る

・自然災害は地域によって大きく異なる。
 ・将来どこで暮らすか分からない(転勤・進学・就職)
 ・行動範囲も広い(旅行・留学)

様々なことを想定した訓練
 【地震・津波・火山・風水(雪)・原子力】

「怖い」だけを教えるのではなく
適切な対応(備え・行動)で命が救われる
協力することが大事

青森県 年3回の避難訓練の実施

計画例

4月 第1回避難訓練(地震・火災)

- ・避難口、避難経路の確認
- ・人数確認の仕方(整列・報告など)

9月 第2回避難訓練(地震)

- ・体験型
- ・講話(外部講師:消防士、防災士)

2月 第3回避難訓練(Jアラート)

- ・冬場の避難(雪害など)

校外組織確認
 保護者引き渡し確認
 集団下校
 地域連携(町会長)
 休み時間
 予告なし(注意:配慮が必要な人)
 放送機器使用無し

小中連携(体験型:中学生+小学校5・6年生+各町会から) **学校**

- 町会ごとに体験
 - 中学生リーダー
 - 小学生サブリーダー
 - 町民紹介
 - 町会ごとに体験(6ブース)

6ブース

- AED体験
- 起震車体験(危険回避)
- 煙体験
- 応急処置
- 避難所グッズ
- 水消火器体験



防災訓練(体験型:中学生+小学校5・6年生+町会から) **町会**

- 夏休みの土曜日開催
- 中学1年生+教員+ボランティア

共通理解
「防止を地域の文化に」を目指し

- ①考える力
- ②判断し行動できる力
- ③生き抜く力

を育てる

- 受付(感染症対策)
- 除菌ホールベットの設置
- 簡易テント設置
- 避難時持ち出し用具
- 避難時配慮事項

研究協議希望内容

- 生徒とともに考える安全教育の取組とヘルメットの義務化
- 地域や保護者と協働して行う避難訓練をどのように実施しているのか。また、その際、どのような形で準備しているのか。
- 子どもが「自分事」として真剣に避難訓練に取り組む成功例があったら紹介してほしい。

第3次学校安全の推進に関する計画

P12

- (2) 地域の災害リスクを踏まえた実践的な防災教育の充実
- (3) 学校における教育手法の改善

令和4年3月25日

新聞記事

災害時の備え 真剣に

小治・2町内会
住民ら640人

小治町と2町内会が、災害時の備えを真剣に検討している。住民ら640人が参加する「災害時の備え検討会」が、10月17日（木）午後7時から、小治町公民館で開かれた。町長、町教育長、町民ら約60人が参加した。町長は、災害時の備えの重要性を述べ、町民の協力を呼びかけた。町教育長は、学校での防災教育の重要性を述べ、町民の協力を呼びかけた。町民らは、災害時の備えの重要性を認識し、真剣に取り組んでいる。検討会は、毎月1回開催され、災害時の備えの検討が進められている。

町長 町民ら640人が参加する「災害時の備え検討会」が、10月17日（木）午後7時から、小治町公民館で開かれた。町長、町教育長、町民ら約60人が参加した。町長は、災害時の備えの重要性を述べ、町民の協力を呼びかけた。町教育長は、学校での防災教育の重要性を述べ、町民の協力を呼びかけた。町民らは、災害時の備えの重要性を認識し、真剣に取り組んでいる。検討会は、毎月1回開催され、災害時の備えの検討が進められている。

町教育長

町民ら

災害時の備え

真剣に

小治町

2町内会

住民ら640人

10月17日

午後7時

小治町公民館

町長

町教育長

町民ら約60人

災害時の備えの重要性を述べ、町民の協力を呼びかけた。

町教育長は、学校での防災教育の重要性を述べ、町民の協力を呼びかけた。

町民らは、災害時の備えの重要性を認識し、真剣に取り組んでいる。

検討会は、毎月1回開催され、災害時の備えの検討が進められている。



第 2 分科会 記 録

第 2 分科会 分科会名 「安全教育」

協 議 題 生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うための安全教育の進め方

【提言 1】弘前市立新和中学校 教頭 岩間 一人 氏

「交通事故防止・校舎内外の安全について」

- ・学校安全 3 つの領域である「生活安全」「交通安全」「災害安全（防災）」がある中で、地域の実態と中学生に多い事故の発生状況から、「交通安全とヘルメット着用」について生徒とともに考え、取り組んでいる。
- ・実践の内容は、① P T A 生活安全委員会との連携による登校指導 ②交通安全教室と自転車点検の実施 ③通学路の安全点検と学校周辺の危険箇所マップの掲示 ④自転車通学時の交通安全とヘルメット着用アンケート調査 である。
- ・今後も体験的な活動や実践的な取り組みを通して、生徒とともに考え、生徒自らが危険に気づき・考えて判断・安全な行動ができる力を育てたい。

【提言 2】おいらせ町立百石小学校 教諭 佐々木 千賀 氏

「子どもに「自分事」としての意識を持たせる防災（津波）指導について」

- ・「自分の命は自分で守る」を合い言葉に指導しているが、なかなか身につかないため、「災害は『自分事』『身近なこと』である」ことを実感させるため、校外への三次避難を含めた津波の避難訓練を実施した。
- ・事前指導として「3. 1 1 の津波の様子」についてのアニメビデオを鑑賞させ、自分の考えを持たせた。
- ・保護者に対して緊急メールが届くよう「ほっとするメール」の登録依頼と登録状況の確認をし、三次避難先（いちょう公園体育館）を学校便りを通して発信した。
- ・机の下への一次避難、グラウンドへの二次避難、いちょう公園への三次避難とも、真剣に行動することができた。今後は地域・家庭との連携をさらに進めていきたい。

【助言】青森県教育庁 東青教育事務所 教育課長 中居 敬子 氏

<はじめに>

- ・令和 4 年に出された「第 3 次学校安全の推進に関する計画」では、計画マニュアルの見直し、子どもの視点をふまえた対策、より実効性のあるもの、が各学校に求められている。子どもが自ら安全に行動し、他の人や社会の安全に貢献できるようになることを目指した内容になっている。

<助言>

<弘前市立新和中学校>

- ・地域の実態と生徒の実態を踏まえ、交通安全教育の必要性から、保護者・地域を巻き込んだ取り組みにつなげている。アンケートを活用することで生徒が自分事として学び、新たな気づきに結

びついた。

- ・自転車点検・ヘルメット着用は「知識・技能」にあたり、アンケートによる危険予測と危険回避は「思考・判断・表現」に相当する。ヘルメット着用の意識や模範行動は「学びに向かう力 人間性」である。

<おいらせ町立百石小学校>

- ・地域の実態と子どもの実態を踏まえ、「自分の命は自分で守る」ことを合言葉に、保護者への連絡も含めた津波避難訓練を実施できたところがよかった。
- ・小学校・中学校・地域（町会）が連携して避難訓練や防災訓練を実施している例や毎日新聞による「防災甲子園」が参考になる。